

# 平成 25 年度事業報告書

平成 25 年 8 月 1 日から平成 26 年 7 月 31 日まで

## ■ 第 8 期（平成 25 年度）基本方針の達成状況

ほんまち事務所に拠点を移して以降、当団体の理念である『まちに笑顔が増える「場」と「つながり」をつくる』は、幸い多くの方々の評価をいただいております、明確な団体コンセプトとして事業の核に据えている。今期は、佐藤が事務局から外れ人員的に非常に厳しい中での運営となり、当初計画していた事業を十分に実施することができず、会員をはじめとした多くの方々のご期待の添えたかどうか検証すべきであると考えています。しかし、4 期ぶりの黒字決算を迎えることができたのは、ボランティアや寄附、イベントへの参加をはじめとした「多くの参画」をしていただいたおかげです。

事業面での経過と課題については大きく 3 点あげられる。

第一に、みんなが集える「場」づくりとネットワークづくりに取り組んだ。まちなか交流企画（まちカフェ、読書会等）や、夏まつり（三田まつり）、冬まつり（あきんどまつり）の「場」をつくり、さまざまな「場」同士がつながりお互いの課題解決を目指すネットワークづくりとしての「居場所研究会」に取り組み始めた。集まった人たちの層と幅はまだ狭く目標には十分に達していないが、三田市内にとどまらず近隣の活動団体や各地の県民交流広場へアプローチをすることができ、連携していきたい。

第二に、「子どもの貧困」という切り口で、地域の各種団体とつながることができたことである。まちの寺子屋「まなびあ」の開設にあたり、県民交流広場や小学校との協力・連携体制をとることができた。また、SSV 関西学院の学生さんたちの参加もいただき、さまざまな創意工夫を地域や活動にもたらすことができたと感じている。

第三に、当団体が設立以来核としていた「地域情報化事業」を縮小することになったことである。具体的には、三田の市民活動のポータルサイト「kippy-de.net」（三田市委託事業）の閉鎖、そして、地域 SNS「さんでい」の閉鎖である。利用者の増加に向けた取り組みや細分化するニーズに十分にこたえることができず、また、運営費用の継続的捻出が難しくなったため、閉鎖という選択をせざるを得なかった。

ほんまち事務所には週 2,3 日程度しかスタッフが常駐できなかつた。しかし、1 月よりボランティアさんが毎週木曜日事務所を開放し、来訪者を受け入れてくださるようになり、その日をめがけて来訪される方も少しずつ増えてきた。当団体に関わるのが楽しいと思ってもらえるような人を増やすためにも、多くの方の意見やアイデアを取り入れながら、誰もが訪れやすい事務所づくりを目指したい。

## ■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

### 1. 市民活動や運営に関する相談事業 (収益 予算：20 千円、実績：187 千円)

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。相談料は1回2,000円（初回無料）、日時・場所は団体の希望にあわせて対応した。

#### 1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体やNPO法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営にかかる組織体制づくり、事業計画・報告書作成支援、会計・労務・登記に関するアドバイスをした。

（主な実績）

- NPO法人たつの赤とんぼを増やそう会（たつの市）
- NPO法人癒しの館（神戸市北区）

#### 1.2. 団体運営・マネジメント支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。

（主な実績）

- 一般社団法人 office ドーナツトーク（大阪市東淀川区）

#### 1.3. 事務作業支援

主にNPO法人の会計・労務等の事務作業支援を行っている。新規案件獲得に向けて積極的な営業ができなかったが、多くの団体が課題と抱えている分野でもあるため、体制を整えて事業化を検討したい。

（主な実績）

- NPO法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ： 会計事務支援

## 2. 市民活動に資するネットワーク形成事業 (収益 予算 : 436 千円、実績 : 167 千円)

※2.2のまつりでの収益(約540千円)を寄付として計上しているため、  
予算に対し実績が小さい数値となっている。

### 2.1. まちなか交流企画

#### (1) まちカフェ

毎月1回、全12回開催。大島がコーディネータを担当し、特にテーマを決めずにざっくばらんな会話を楽しむ時間を提供した。ここでの参加メンバーが、まつりイベント等での出店やさまざまな活動でのボランティアとして活躍して下さった。また、まちなか交流企画事業実施の経験から、地域の居場所づくり活動支援事業として、7.1(1)居場所研究会事業の立ち上げにつながった。



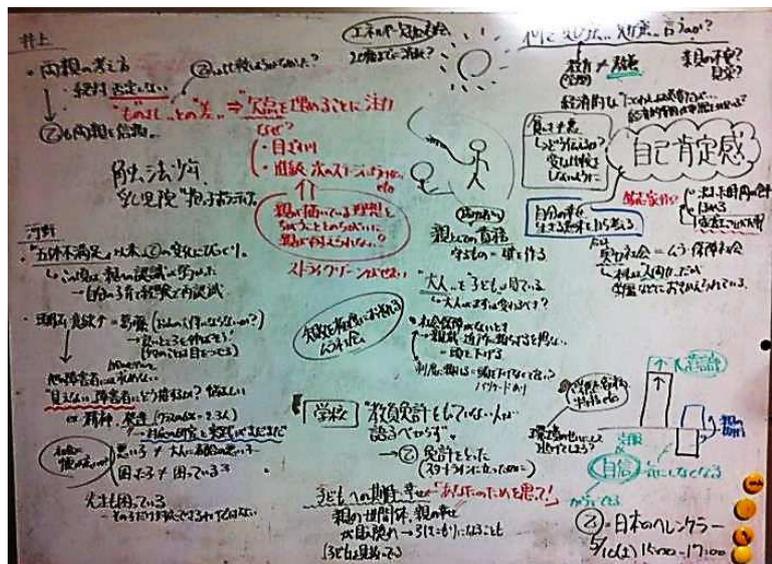
ただ、新しい参加者が期待以上に増えず、三田小学校区県民交流広場「じばやんクラブ」などで開催されている類似事業との差別化や連携、PR方法に課題を残している。

#### (2) まちの読書会

奇数月の第2土曜日、計6回開催。参加者は読んでいなくても参加可能という設定で開催。担当の大島が本を選定しているが、半分は参加者から書籍や著者の提案をいただき、さまざまなジャンルの本を選ぶことができた。

一方で、参加者の継続参加率は高いが、まちカフェ同様に新しい参加者の獲得が十分に行えていない。

(議論の様子を記録したホワイトボード)



(実施状況)

実施日	書籍名 (出版年)	著者
2013年9月14日	地方にこもる若者たち (2013)	阿部真大
2013年11月9日	日本はなぜ世界で一番人気があるのか (2010)	竹田恒泰
2014年1月11日	医療にたかるな (2013)	村上智彦
2014年3月8日	自分を愛する力 (2013)	乙武洋匡
2014年5月10日	私はやった、あなたもできる (2012)	上田研二
2014年7月12日	教育の力 (2014)	苫野一徳

## 2.2. 夏まつり (三田まつり) / 冬まつり (あきんどまつり) での店頭販売

夏と冬の商店街でのイベントに、商店街の一員として参加。事務所前にて、夏は冷やしきゅうり、わた菓子、どじょうすくい他を、冬はわた菓子、焼き芋を販売した。

特に夏の冷やしきゅうりは、競合店に「野菜」を販売するところがなかったことから多くの売上げとなったが、衛生上の課題から次回からは実施しないことを決めた。またどじょうすくい (金魚の代わりにドジョウをタライに入れポイで掬う) へのリピーター率も高く、我々の店舗として定着しつつある。

※東畑肇さん (NPO 法人縁農ネット理事長、広野在住) の協力得て、減農薬の田んぼからどじょうをすくった。

## 2.3. シェアオフィス

ほんまち事務所を NPO 法人縁農ネット、および三田市文化協会とシェアしており、その家賃収益 (各 5 千円/月) を計上。なお、NPO 法人縁農ネットは 2014 年 6 月をもって退室しており、事務所には、あと 1、2 団体を受け入れるスペースがある。

## 2.4. 事務所コワーキング化プロジェクト

ほんまち事務所の「人が集う場」という資源を多くの方に利用いただき、資源をさまざまな意欲する人とシェアできるように、事務所や FAX 等の機材を自由に使えるようにするコワーキング (月 3000 円) として、今期の新規事業として取り組んだ。

しかし、駐車場が準備できない地の不利や PR 不足もあり、現状の契約者は理事 2 名のみにとどまっている。

## 2.5. 三田まちの寺子屋「まなびあ」立ち上げ

地域の子どもの地域で支える仕組みづくりを目指し、生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、平成25年8月に立ち上げ。共働き家庭の子どもの、放課後の居場所づくりなどにもテーマを拡大し、運営している。

初動費用には、独立行政法人福祉医療機構の助成金を活用。その後はボランティアによる運営を続けている。

### (1) 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営

平成25年8月7日より、毎週2回開催。三田小学校、三輪小学校にチラシを配布し参加を募った。子どもたちの学習支援を行う「まなびサポーター」には、一般市民への声かけに加え、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーに依頼し、担っている（登録サポーター：10名）

	開設時～	平成26年4月～	平成26年7月～
実施日	水曜 15:30～18:30 土曜 13:30～16:30	水曜 15:30～18:30 金曜 //	
場 所	三田ほんまち交流館「縁」		三田小学校区県民交流広場「じばやんクラブ」
利用者数	小学生～高卒生 平均4人	小学生～高卒生 平均3人	小学生～高卒生 平均5人

また、6月より通常の学習支援に加え「まなびサタデースクール」（仮称）として、土休日に子ども対象のイベントを開催（詳細は事業計画書参照）。SSV 関西学院のメンバーが中心に企画づくりを行っている。

### (2) 「子どもの貧困」シンポジウム開催

独立行政法人福祉医療機構の助成金を活用して、「こどもの貧困に、どうかかわる？」を開催。参加者32名。まなびあ立ち上げ時に視察しその後も継続的にアドバイスをいただいているNPO法人山科醍醐こどものひろばの村井琢哉氏、三田市内で子育て支援を行うNPO法人保育ネットワークミルクの小泉雅子氏、不登校・ひきこもり児者支援を行う一般社団法人office ドーナツトークの辻田梨紗氏を招き、「子どもの貧困」の今に関する情報提供をいただき、三田でどのような取組みができるかを参加者同士で意見交換した。



### 3. 市民活動に資する人材育成事業 (収益 予算 : 218 千円、実績 : 49 千円)

事務局の人員が減少し営業が十分にできなかったため、当初計画に比べて実施回数（自主・派遣含む）が減り、収益額は目標を達成することができなかった。

#### 3.1. 自主セミナー開催

##### (1) 「助成金セミナー」開催

12月21日より4回連続セミナーとして開催し、5名が参加。①団体に適した資金とは？ ～いろいろな資金源、ときどき助成金、②人を惹きつける事業づくり ～目的、手法、効果・その後…、③予算書の作り方 ～やればやるほど赤字からの脱却、④思いを伝えるプレゼンのコツ！の4つのテーマで開催した。

また、このセミナーを実施したことで、一般財団法人明石コミュニティ創造協会さんより同内容での講師依頼をいただき、開催した。

#### 3.2. 委託セミナー開催

今年度は実施なし

#### 3.3. 講師派遣

依頼を受けて下記の講座に講師を派遣した。

実施日	場所	内容	主催者
9月17日	阪神北県民局	活動のヒントを見つけよう！～ボランティア・寄付・つながりづくり～	兵庫県阪神北県民局
1月12日	ゆりのき台小学校	「地域座談会」ファシリテーター	ゆりのき台小学校 区県民交流広場
3月16日	有馬富士パークセンター	ありまふじサミット (共同パネリスト)	人と自然の博物館
3月26日～	アスパシア明石北館	助成金セミナー ※3.1(1)と同内容	(一財)明石コミュニティ創造協会
4月16日	関西学院大学神戸三田キャンパス	さんだのまちづくりとNPO活動	関学大総合政策学部長谷川基礎ゼミ
6月21日	三田市まちづくり協働センター	シンポジウム「ひきこもり地域で支える体制をめざして」ファシリテーター	ぱそこんスペース 宙
7月8日	甲南大学	NPOの「つながり」がもたらす可能性と社会変革性 ～NPOの「今」を中間支援組織の立場から分析する	文学部「NPO論」 ゲストスピーカー
7月22日	三田市まちづくり協働センター	地域づくり活動ってどんなもの？ ～地域に集まる「人」と「共感」	阪神北県民局

## 4. 市民活動に関する情報発信事業 (収益 予算 : 138 千円、実績 : 180 千円)

### 4.1. メールニュース発行

毎月 1 日、15 日にメールニュースを配信。当会の主催事業の案内に加え、地域イベント情報を無料で掲載している。現在 145 人に直接送付（前期末比 25 人増）、同内容を当団体ウェブページや地域 SNS「さんでい」、facebook サイトに掲載している。これとは別に、助成金情報を毎月配信。好評を博した。

地域イベント情報は、当団体のボランティアである、新納晃重氏が、毎回文字入力してくださっている。

### 4.2. kippy-de.net 管理

三田市から受託していた市民活動のためのポータルサイト「kippy-de.net」が 2013 年 11 月末に閉鎖となった。この間の管理委託料が収益に含まれている。

### 4.3. 広報誌「場とつながり」発行

事務局の負担軽減のために、メールニュースを充実していくために、紙媒体での広報誌作成を当面実施しない旨を理事会で決議したため、今期は発行していない。

### 4.4 神戸新聞への寄稿

神戸新聞社より依頼を受け、2013 年 11 月「神戸新聞を読んで」に大島が寄稿した。

## 5. まちづくりに資する地域情報化事業 (収益 予算 : 0 千円、実績 : 0 千円)

### 5.1. 地域 SNS 運営

#### (1) 地域 SNS「さんでい」の運営

平成 19 年 11 月にオープンした地域 SNS「さんでい」(<http://sanday.jp>) の管理運営を行っていたが、継続的な運営資金の確保が難しくなったため、平成 26 年 7 月末をもって閉鎖することになった。兵庫県「ひよこむ」や facebook 等でのグループに一時引っ越しを奨め、「さんでい」で得たつながりを絶やさぬよう側面支援していきたい。

## 6. まちづくりに資するコーディネーション事業

**(収益 予算 : 400 千円、実績 : 843 千円)**

### 6.1. ひょうごコミュニティ財団創立プロジェクト

「ひょうごコミュニティ財団」（平成 25 年 6 月設立、7 月公益法人化）に、当団体が、設立準備会当時より設立呼びかけ団体として参画。財団から業務委託される形で、月 10 日程度佐藤が事務局で勤務していたが、8 月末をもって終了した。

### 6.2. 寄付付き商品プロジェクト「ハッピートライアングルプロジェクト」

三田市商工会が主催する寄付つき商品プロジェクトに、佐藤がコーディネータとしてプロジェクトの運営全般を担った。

具体的には、寄付先を三田市内の市民活動団体とした寄付付き商品を、地元商工業者が開発し販売することで、市民活動団体は資金獲得を、地元商工業者は知名度アップと新規顧客獲得を狙おうとするものである。これにより、地域も元気になり「三方良し」となることを目指して、「ハッピートライアングルプロジェクト」と名付けられている。



平成 25 年度の参加団体は市民活動団体一企業のペアが 10 組であったが、平成 26 年度は 22 の企業からの参加申し込みがあり、現在ペアリングとチラシ作成を行っている。10 月から平成 27 年 1 月末まで実施予定。

### 6.3. 商店街にぎわいづくり支援事業

地域コミュニティとしての商店街組織の、恒常的な集客力向上や販売力向上を目指したイベント等の事業を支援する助成金「平成 25 年度地域商店街活性化事業」への応募を検討する商店街に対し、場とつながりの研究センターが書類作成やイベント運営の支援を行った。三田中央町 2 番街と神戸市元町 5 丁目の両商店街の事業企画が採択され、佐藤がこれから事業の実施を支援した。元町 5 丁目は平成 26 年度も引き続き支援を行う予定である。

## 7. 市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業

(収益 予算 : 20 千円、実績 : 282 千円)

### 7.1. 研究受託

#### (1) 居場所研究会 (ひょうごボランティア基金助成事業)

さまざまな困難を抱える人たちの集いの場としての「居場所」の運営のあり方について、さまざまな団体が集まって議論をする「居場所研究会」を実施した。予算は、ひょうごボランティア基金「フロンティア活動助成」の助成金を原資としている。

(実施状況)

実施日	テーマ	ゲスト
2013年12月14日	ステップアップコーディネーター研修	永井美佳氏
2014年1月28日	参加者が「主役」になれる、サークル運営のコツ	木下清恵氏
2014年2月4日	地域住民が支えあう、コミュニティカフェの作り方	梶本美智子氏
2014年2月12日	まちの人がふらっとつながれる、ゆるやかな場作りのコツ	三井ハルコ氏
2014年2月18日	「私」が認められる居場所の、あたたかさと課題	井上一休氏
2014年3月15日	となりカフェというサードプレイス	田中俊英氏

#### (2) 宝塚市社会福祉協議会「共同募金等地域福祉財源に関する調査研究」(共同)

赤い羽根共同募金などの地域福祉財源のあり方についての研究に、大島が参加。「地域福祉財源の新しい形」の章を担当し、寄付つき商品やネット募金など、対面型の募金以外の新しい手法についてまとめた。

### 7.2. 市民調査支援

「市民の社会調査を支援するパンフレット」および「自習テキスト」を活用して、市民活動団体が行う社会調査の支援を目指したが、活動はまったくできずに終わった。パンフレットや自習テキストという資源の PR に加え、市民活動団体自身による市民調査の必要性を普及・啓発していく必要がある。

### 7.3. その他

「ひょうご中間支援ネットワーク」の会合に参加し、企画ファシリテーターを担うなど積極的に議論に参加。今年度は、認定 NPO 法人の普及を目指したパンフレットを作成することをテーマとしたプロジェクトチームへ参加した。

また、大島がプロジェクトメンバーとして参加した「兵庫県・神戸市版 NPO 法人の手引」(1. 設立・運営編、2. 認定 NPO 法人編)は、こちらからダウンロードが可能である。[http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/v-hyogo/info/v\\_3\\_1/tebiki-moku.html](http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/v-hyogo/info/v_3_1/tebiki-moku.html)

## ■ 管理および法人運営部門

### 1. 会員の状況 (収益 予算 : 60 千円、実績 : 75 千円)

期初時点での正会員数は19名であったが、期末時点で1名の入会があり、現在の正会員数は20名である。会員の多くは、これまでに場とつながりの研究センターのスタッフとして関わったメンバーである。

当初計画では、多くの方々に会の運営を支援していただきたいとの思いから、賛助会員の新規会員増を目指していたが、勧誘活動を効果的に行うことができず、新規会員の増員にはつながらなかった。

### 2. 寄附の状況 (収益 予算 : 270 千円、実績 : 682 千円)

寄付額は、目標を上回ることができた。事務所での会議や打合せ、まつりでの収益、懇親会時の差額の寄付が多いが、今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付してくださった方も多くいらっしやった。

また、まちの寺子屋「まなびあ」の活動場所である「三田ほんまち交流館 縁」さんより、会場使用料を多くご負担いただいた。金額には計上していないが、「まなびあ」がこれまで継続できている大きな要因の一つとして、ここに記したい。

### 3. 会議に関する事項

	日 時	会場	備 考
総 会	2013年9月23日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
	2013年10月21日	(みなし開催)	役員変更に伴う臨時総会
理 事 会	2013年9月7日	ほんまち事務所	
	2013年10月22日	(みなし開催)	理事長選任
	2013年10月29日	ほんまち事務所	
	2014年1月29日	〃	
	2014年5月16日	〃	

また、理事間でメーリングリストを設置し、日常的に相談、議論できる環境を構築している。

■ これまでの業績推移

	収入	経常収支差額	主な事業等
平成 18 年度	6,192,761	△ 960,814	市民活動推進プラザ運営
平成 19 年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでい」立ち上げ
平成 20 年度	17,329,561	△ 347,523	総務省「地方の元気再生事業」
平成 21 年度	17,053,023	66,850	
平成 22 年度	49,197,634	△ 2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。他、3つの緊急雇用事業
平成 23 年度	20,208,730	△ 961,253	市民活動推進プラザ、受託終了
平成 24 年度	5,412,920	△ 1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
平成 25 年度	4,823,671	407,254	

以上